

JACET 雑感

岩城 礼三

北海道支部設立 15 周年の記念論文集刊行が進んでいることを栗原支部長からお知らせいただき、改めて時の流れの早いこと、“Time flies like a jet plane.”だと実感しております。この段階にまで力強く支部を発展させてこられた運営に関わる皆様、協力にサポートしてこられた会員の皆様に敬意を表したいと思います。私も創設にかかわった一員として来し方を振り返ってみますと、“Men may come, men may go.”の思いで感無量です。

北海道の場合忘れられないのは、1986年に支部という形で全国組織の一環として研究活動が開花するのに先行する、JACET 北海道地区研究会という形での14年にわたる自主的活動期間があったことです。この活動の trigger となられたのは北市教授（北大）でした。いよいよ正式支部とすべく組織化の準備に取り掛かろうという頃、頑健な同教授が病気に伏される事態が生じました。苦しい病床で「JACET を頼む」と気力をしばって言われたことが今も鮮明に思い出されます。この突然のハードルを乗り越えて、いろいろと基礎がためをしている段階で、大学授業の改革・研究に意欲的であった武本教授（樽商大）がご家族を大韓空港事件の悲劇に巻き込まれてしまったこと、ついで、活動的な小林教授（武蔵女短大）・山岸教授（道教大・函館）が急逝されるなど、中心的活動をされた先生方を失うなどの不運が毎年続き、支部発足が遅れざるを得ませんでした。その後も、「ヘイセイ」という音がまだ唇になじむ間も無い平成元年（1989）の1月ですが、英語教育の重鎮であられた初代支部長の北村教授（樽商大）が逝去されました。平素から健康を誇っておられた先生だけに、支部会員のショックも大きいものであります。地区研究会・支部創成の時期はこのような予期せぬことが重なりましたが、これらの不運にめげず、会員一同は蓄積してきたエネルギーを燃やしてきたことを思いだします。研究会の盛況、内外の招待著名学者の講演や討議などが内容も濃く積み重ねられ、1991年には大学英語教育学会全国大会を北大のキャンパスで開催でき、支部会員の熱気あるご協力のお陰で盛会でした。道支部の活動が今、新しいクールに入ると言ってもよいこの機会に、これらの先達のご功績に改めて感謝申し上げたいと思います。

私も古希を過ぎて、振り返ることが多い年齢となりました。戦後の混乱期の中で英語の教育に携わってから、もう半世紀以上も経過したことになります。この間、学校英語教育にはいつも冷たい風が吹いていました。日本の英語教育史そのものが、批判の歴史でもあったと言えるでしょう。中には無責任なものも少なくありません。しかし、教師サイドにも「旧態依然たる学校英語教育習慣病」を拡大再生産しているものが一方にあり、他方には、いつも目新しい指導スローガンに振り回される「振り子症候群」があったことは否めないと思います。しかし、これからの国際化社会の中では、やはり学校の英語教育が改革の中核とならなければ、我が国の生存にかかわる英語教育の改善は望めないし、またそれは可能であると信じたいのです。その要となるのが JACET であると考えます。

中・高・教育研究機関・短大・大学にわたる私の半世紀の英語教育個人史を回想して

の感慨は、いつも「道に迷っているばかり」で、「天路歷程」ならぬ「迷路歷程」という感じでした。その迷える子羊に特に有益であったのは、一つには中学校教員の経験であり、二つには JACET 活動です。中学教師の経験は僅か1年ですが、非常に有益でした。大学の教師は高校の教育経験を、高校教員は中学の教育経験を、都市部の教員は僻地・複式教育の経験を短期間でも持つべきだと思います。JACET とは教育研究所勤務以来長く関係してまいりました。先輩・学兄の皆様から教わることも多く、大過なく過ごしてこられたのも、そのお陰とっております。

JACET 学会活動を続ける中で JACET の ACRONYM を、私自身では次のように掴みなおしてきました。即ち、**JACET** は英語教育を改善し、“Japanese **ACE** Teachers” になる為のものだということです。ACE になるための核は、指導組織の中にあって変革・改善について **A**ctive であること、指導内容は基本的に **C**ommunication 指向であること、指導姿勢は学習者に視線を置き **E**ncouraging であることの3つだと、簡潔に焦点化してきました。この3つの principle はいずれも、支部の研究においても、実践においても勿論問題は多々ありますが、たくましく進展してきているのは心強いことです。

私自身は今までの長い間、JACET 北海道支部の皆様には多面にわたり、ご指導・ご助力賜りました。すぐる沖縄全国大会では学会から望外の感謝状など頂戴いたしました。これもひとへに支部の皆様のお陰です。厚く御礼申し上げます。

支部の益々の発展を祈念します。